社会的弱者によりそう施策を

厚労省交渉

厚生労働省交渉が10月5日、同省内でひらかれ和歌山から平見良太・生活福祉運動部長、辻岡龍閣・同部員、事務局が参加した。

山﨑鈴子・中央生活福祉運動部長のあいさつのあと、金井正人・同省社会援護局地域福祉課課長から「基本的人権は憲法に明記された大原則。隣保館の整備や運営等を通じて同和問題をはじめとする多様な人権課題の解決にむけて、必要な施策をすすめていきたい。熊本地震もあり、防災対策の強化、耐震化整備の10億円の予算を要求している。また来年度の予算要求についても、前年度のマイナス10％減というのが数年続いているが、必要なものは必要というスタンスで同額要求し、力を入れている」とあいさつされ、交渉にすすんだ。

部落問題解決について「差別は依然として存在し、残された課題解決に向けとりくんでいく」と同和行政の必要性について答えた。また、生活困窮者自立支援法について「支援の効果を最大限にするためには、横断的連けいが重要。包括的支援を官民連けいしてとりくまなければならない。全国自治体関係者が集まる会議の場でも、地域における多様な社会資源としてより積極的な隣保館運営ができるよう、周知のお願いをしている」と回答した。その他、生活保護にかかわって「高校生の収入認定除外や生活福祉資金の上限が増額されているなどの情報を隣保館に周知されていない」「介護認定の審査会で、認定や調査する人が部落問題を認識していないため、部落差別による実態や結果をふまえた審査がされていない」などの意見がだされた。

また、障害者差別解消法について「すべての隣保館職員が知っているのか」「全自治体に周知されていない」「対応要領に沿った対応ができていない。当事者・全隣協と協議してなにをすればいいか議論をすべき」との指摘がだされた。

今後の日程

（12月）

1　県連青年対策部会議
3～4　第23回中央福祉学校（名古屋市）
5　世界人権宣言東京集会（東京）
6　実行委員会幹事会・差別事件報告集会識字代表者会議（プラザホープ）
7　世界人権宣言大阪集会（大阪市）
8　第30回憲法の破壊を許さないランチTIMEデモ
9　最高裁は地方自治の破壊を許さず、民意によりそう裁判を！辺野古新基地建設を許さない！12・9和歌山集会（県立図書館）
11　吉本かんよう事務所ひらき
人権と平和の集い（西和佐小学校）
女性対策部会議・ワーキング部会
12　「全国部落調査」復刻版出版事件第3回口頭弁論（東京地裁）
13　第73期第1回全国住環境政策担当者会議と第2回国土交通省交渉（東京）
部落解放・人権夏期講座第3回総括会議（大阪市）
狭山学習会（田辺）
15　第1回県共闘会議拡大幹事会
17～18　第3回近畿・東海・北陸ブロック青年交流学習会（同和企業センターほか）
20　同企連2016年度第2回幹事会（新橋ビル）
21　対和歌山県2次交渉（農林水産部・県土整備部・環境生活部・福祉保健部）
22　狭山ビラ統一行動
対和歌山県2次交渉（商工観光労働部・教育委員会・総務部・企画部）
28　仕事おさめ

視察研修を彦根市で

第1回全国農林漁業運動部長会議

第73期第1回全国農林漁業運動部長会議が10月4日、大阪・HRCでひらかれ、飯田勝・農林漁業運動部長と事務局が参加した。

はじめに、池田清郎・農林漁業運動部長から「10月27日の農林水産省交渉の要求項目について議論をしたい。また、視察研修会を滋賀県彦根市でひらくことを視野に」とあいさつがあった。つづいて、第73期運動方針の確認、農林水産省交渉の要求項目（TPP交渉・農機具・ハウス等施設）について話しあった。

農水省交渉について議論を深めようとあいさつする池田部長

分科会を総括

全高・全青

全高・全青分科会総括会議を10月1日、大阪HRCビル会議室でひらかれ、松井資喜・青年部長、事務局が参加した。

分科会の総括で、高校生集会と青年集会を別で開催してほしい。2泊3日の開催にもどしてほしいなどの意見が各府県連からだされた。

また「近畿・東海・北陸ブロック交流学習会」が和歌山に決定し、タイムスケジュールなどを議論した。学習会の講師に川口正志・議長、九州ブロックの青年部で報告することが確認された。

最後に、夕食交流会及び宿泊場所はダイワロイネットホテル和歌山、2日目のフィールドワークは、和歌山市岩橋地区で決定した。

狭山事件を考える

私が狭山事件を知ったのは、2001年に3か月間、期間限定のパートとして、県連にきたときでした。先輩から「この本読みなぁ」と手渡されたのが「石川さんは無実だ」というB5ぐらいの大きさの冊子でした。はじめは、つじつまが合わない事件の石川さんの供述に、なぜ犯していないなら、はっきりやっていないといえないのかと思いながら読んでいました。しかし、狭山市民集会や各集会での石川一雄さん・早智子さんのアピール、また狭山学習会に参加するようになって、取り調べの拷問やでっち上げられた万年筆、石川さんが書いたとされる最重要証拠の脅迫状、またこの事件が、警察の被差別部落に対する予断と偏見にもとづき集中的に見込み捜査をおこない、石川さんにウソの自白を迫ったことに腹立たしさを感じました。当時24歳だった石川さんも、えん罪を訴えて53年、今年77歳です。本人自身が健康に気をつけていても、年老いていきます。ここ数年で、他のえん罪事件が取り上げられたこともあり、はじめた当初は関心がなくビラを受け取ってもらえなかった方が「まだ無罪にならないのか、がんばれよ」と声をかけてくれます。三者協議も7年を経過し、新証拠開示がすすむなか、開示された取り調べテープからの自白の強要や万年筆が被害者のものではないことが明らかになりました。1日でも早く石川さんの完全無罪をはらすため、私ができることは、狭山事件をたくさんの人に知ってもらい全証拠開示を求めるとともに、これからも毎月の23狭山デーでの駅前ビラや集会に参加していきます。

（山本恵里）

支局からのお知らせ

お気軽にお電話を！

和歌山支局では、各支部でのとりくみを積極的に紹介していきたいと思います。支部活動や子ども会活動など、支局までお知らせいただければ、取材に走ります。もちろん、投稿記事も大歓迎！　写真を添えて支局までお送り下さい。

（発送先）〒640－8314
和歌山市神前405－3
部落解放同盟県連合会内
解放新聞和歌山支局宛